

日本物理学会領域2運営会議 議事録案

日時：2024年3月19日(火) 12:30-13:10

場所：zoomによるオンライン

司会：領域2代表 藤堂，参加者：約25名，書記：三瓶

報告・議論事項

- 1) 2024年4月からの役員体制・役割分担
- 2) 新役員の推薦と領域代表、領域副代表の候補について
- 3) 第78回年次大会（2023年秋）学生優秀発表賞に関する報告
- 4) 若手奨励賞[第18回（2024年）]に関する報告
- 5) 第79回年次大会（2024年秋）シンポジウム・招待講演等の提案
- 6) 領域委員会報告
- 7) 領域2での確認事項
- 8) 講演件数の推移
- 9) 講演概要集提出率
- 10) その他

報告・議事内容

- 1) 2024年4月からの役員体制・役割分担

役員体制・役割分担を確認した。（代表・副代表・前代表のみの変更）

領域代表 長崎 百伸（京都大学）

領域副代表 比村 治彦（京都工芸繊維大学）

領域前代表 藤堂 泰（核融合研）

役員（藪内，四竈，斎藤）

運営委員（佐々木，三瓶，菊池，徳澤，松山，安部）

- 2) 新役員の推薦と領域代表、領域副代表の候補について

2024年10月からの領域役員（2024年10月から領域委員）の推薦

次期領域役員 岩田 夏弥さん（大阪大学）

次期領域役員 大石鉄太郎さん（東北大学）

次期領域役員 川面 洋平さん（東北大学）

2024年4月からの領域代表、副代表の候補

領域代表 長崎 百伸さん（京都大学）

領域副代表 比村 治彦さん（京都工芸繊維大学）

-10月中旬に2025年度の領域代表・副代表を推薦する

3) 第78回年次大会（2023年秋、東北大学）での受賞者

応募者31名の中から、以下5名を選出.

- 中山 智成 氏（総研大）
「縮約輸送モデルを用いた熱流駆動プラズマ乱流輸送の動的連成シミュレーション」
- 那須 達丈 氏（総研大）
「LHDプラズマの電子・イオンスケール乱流間相互作用と非等方性検証に向けた挑戦Ⅴ」
- Minh Nhat Ly 氏（阪大レーザー研）
「The impacts of downstream heating on ion acceleration for collisionless electrostatic shock」
- 井手坂 朋幸 氏（阪大レーザー研）
「複合レーザーアブレーション過程におけるパラメータ計測②
X線バックライト法を用いた質量噴出率の時間分解計測手法の開発」
- 二階堂 颯佳 氏（阪大工院）
「機械学習による蛍光飛跡検出器からの三次元イオン飛跡の抽出とそれを用いた核種弁別法」

4) 若手奨励賞[第18回（2024年）]に関する報告

今回は2名の応募。選考委員は6名。

選考委員:稲垣滋（委員長）、長崎百伸（副委員長）、井戸毅、比村治彦、城崎知至、岩田夏弥

- 小川 国大（核融合科学研究所）
研究題目：ヘリカルプラズマにおける高エネルギー粒子閉じ込め物理研究
- 太田 雅人（核融合科学研究所）
研究題目：電気光学検出を用いた相対論的クーロン電場の研究
-若手奨励賞受賞記念講演は3/20(水) 13:30 から

5) 第79回年次大会（2024年秋）シンポジウム・招待講演等の提案

シンポジウム（1件提案 + 領域1との合同提案）、招待講演（2件提案）.

- シンポジウム（1件提案）提案者 星健夫（核融合科学研究所）
「先端計測のフロンティア～見えないモノを見る挑戦」
- 星氏から内容が説明された。基本的に開催することが承認された。

- シンポジウム（領域 1 との合同提案）提案者 難波慎一（広島大学）
「多価イオン物理研究の学際的展望」
 - 藤堂氏から内容が説明された。領域 2 も参加することで承認された。

招待講演（2 件提案）

- 小林 進二（京都大学） 「ヘリオトロン型磁場配位における統計加速」
 - 長崎氏から内容が説明された。異論なく承認された。

- 川手 朋子（核融合科学研究所） 「磁場閉じ込めプラズマにおける水素化ホウ素分子の形成・放射過程」
 - 藤堂氏から内容が説明された。
 - 村上氏から説明があり、ホウ素は ITER でも使われるということで注目されている。BH 分子の励起衝突断面積の計算が世界で初めて行われ、分光の立場からも興味深い結果である。分子過程ということで領域 1 から興味を持たれると思われる。
 - 上記を受けて、招待講演としての承認を進める。

6) 領域委員会報告

1. 領域委員会（2023 年 11 月 16 日、オンライン開催）

計算物理領域の新設について

各領域からの議論の報告

領域 1, 領域 11 など大きな影響が予想される領域と個別に意見交換会を開催することとした

2. 臨時領域委員会（2024 年 3 月 15 日、オンライン開催）

計算物理領域の試行について

領域 1 および領域 11 との意見交換会について報告

今後について：各領域で議論・了解 -> 5 月の領域委員会で再度審議 -> 合意できればワーキンググループを設置

若手奨励賞の発表者数の割当に影響はないか -> 既存領域に不利な影響が出ないようにワーキンググループで検討する

- 「既存領域の講演としてカウントする」との文言は、「セッションが全て関連領域との合同セッションとする」ことから、申し込み時に自動的に既存領域にカウントされる。

物理学会からのサポートレターの発出について

サポートレターの発出方針、可否決定プロセス、サポートレター文案を検討中

7) 領域 2 での確認事項

以下の事項について確認した.

- Plasma メーリングリストの運用
- 学生優秀発表賞
- シンポジウム, 招待講演
- シンポジウム等での online 登壇

8) 講演件数の推移

98 件. オンライン及びシンポジウム, 企画セッションの影響で増えることが期待されたが, 前回(95 件)から微増に留まった.

9) 講演概要集提出率

概要提出率は 93/98 (94.8%)

物性領域としては平均的である.

10) その他

特になし

以上